

第34回 白井市庁舎建設等検討委員会

平成29年8月22日

○藤森委員からの質問への回答書

No.	質問事項	回答
1	<p>今回の調査結果は、3年前にこの委員会で市庁舎の建設について「減築・新築」を決定したときの調査内容と、比較してどのような差異があったのか、あったとすれば特徴的な事項は。</p>	<p>実施設計時に調査したものは、耐震診断に関する調査を行っています。</p> <p>今回の事象につきましては、耐震診断での調査に該当しない個所となります。</p>
2	<p>今回の報告は、「床スラブのひび割れ」「小梁のたわみ」のみが特記されているが その他構造物の状態についても、問題があるなしに関わらず内容を報告すべきである。</p> <p>鉄筋、鉄骨などの状態(ひび割れから浸水、酸化などによる錆、劣化は見受けられなかったのか)が考えられるが・・・</p> <p>また、コンクリートの腐食と云うことはなかったのか。</p>	<p>議題1の工事報告において現状について説明します。</p> <p>この後の現場見学会でも現状を確認できます。</p>
3	<p>小梁のたわみ 25mmのたわみが発生している、その要因は、長期荷重によるクリープ変形が主な要因とある。</p> <p>床荷重を支える 「小梁の目的から配置されているので建物の耐震性とは直接関係しません」とあるが、何故関係しないのか説明願いたい。</p>	<p>建物の各部材にはそれぞれの役割があります。</p> <p>地震力に抵抗する部材は、大梁や柱といったものとなります。</p> <p>耐震診断については、この大梁や柱を対象に診断を行います。</p> <p>小梁は、地震力を負担するのではなく、大梁と大梁の間に設置し、床の荷重を負担し、大梁に伝達させる役割となるため、ご説明の内容となります。</p>
4	<p>床スラブ割れが(0.3～2.0mm)多数発生している、建築学会の目標ひび割れ幅は 0.3mm であり、</p>	<p>コンクリートの性質上、ひび割れを許容しています。</p> <p>補修すべきひび割れ幅について</p>

	<p>調査結果のひび割れが大きいものは2.0mmあるという それは、基準値を7倍も上回っているひび割れである。 なのに、改めて今回強度を確認したら、「必要な強度を満足しています」とあるのは、どういうことか、矛盾しているのではないか？ 建築学会が定めた、目標最大幅のひび割れを、0.3mmと定めた内容には理由があるはず、それは何か？ なのに「必要な強度を満足しています」の意味は何をさすのか。</p>	<p>は、0.3mmを超えるものとしているのは、微細なひび割れは、深さも浅いことから、ひび割れ補修したあとの床補修（セルフレベリング材）でふさがりために補修範囲から除外しています。 また、微細なひび割れまで補修することによる費用の増大も一つの要因としてあります。 強度につきましては、構造計算を再度行い、既存の小梁の断面形状で強度が満足していることを確認しました。</p>
5	<p>補修、補強工法について ① 今回の補修・補強の費用は既に計上されている中に含まれているのか ② 「小梁のたわみが増加しなければ・・・」とあるが、今後たわみが増加することも示唆する内容にも思えるが、これまでの実験結果、事例などからもっと確実性があることが云えないのか。</p>	<p>① 費用は現在の請負契約に入っておりません。 ② 今回補強しようとしている小梁は断面寸法が全て同じものとなっており、現在の設計基準に照らし合わせると断面寸法が小さなことも原因の一つだと考えられることから、補強するものです。 また、実験結果もあり炭素繊維シートを張ることによって効果があることが確認されています。</p>